

---

# 思いがけない一日

青式部

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

思いがけない一日

### 【Nコード】

N2821Q

### 【作者名】

青式部

### 【あらすじ】

ちよっとした一日。注）前近代的な空想の産物です。

まだ薄暗い明け方に目を覚ますと秀人はいつものように冷たい水で顔を洗って外へ出て、そのまま南の方へ向かって歩き出した。普段はデンモール駅前の幌馬車を停めるために使われている小さな広場、といっても人が集まるかといえば馬車に乗るためにやってくる者しかこない、が解放されており見慣れない人ばかりが出来ている。

高台にいた男は頃合いを見計らっていたが、時刻を確認すると大きな声で開始を告げたかと思うと、長蛇の列はゆっくりと動き出した。3月のポロークイン海近隣に特有の乾いていてどこか物悲しい風が吹いてきて、秀人は上着を首元まで閉めなければならなかった。

それからちよつとすると前方にいた青年が走り出したので、秀人も続いてスタートを切りジュペリ通りという幅のある幹線道路まで走った。通りは普段は自動車で混雑しているが、今日に限っては早朝の時間帯は交通規制がかけられているから車一台見当たらない。

南東に位置するジタリア県には近海へと流れるツンドラ河が走っているが、その流れはゆったりとしており、河岸で染料染めをしている村落の女達が機械のコトコトという音の合間に顔をみせている。こうした染料染めはこの地域の主な産業となっており、古くからこの機械音は知れ渡っていた。

整備されかけて放置されている両岸には時おりカラスが飛来してゴミを漁っているが、今日は朝から自治体の警護団がやって来て追い払うので寄りつかないでいた。だがこうした理由からおよそ走行には向かない場所であったから、走者は必ずしも競技に集中することとは出来ないで、中には膝をついたまま休憩してしまうものや、走

るのをやめるものも少なくなっていた。

だが秀人には入賞することでえられる3レイリオンが重要な生活の資になるし、出来れば送金しようと考えていたのであるから、秀人は脇目もふらずに走り続けなければならなかった。しかし秀人はこれを苦痛と考えていたかというところでもなく、こうした環境は生まれ育った路地やその横にある雑踏、間断なく聞こえてくる生活音、小動物のたてる音や散乱しているゴミのすえた臭いと大差なく慣れきってしまった、もはや頭の中にそれらが問題として提示され、思考の対象として現れることさえ少ないのであった。あるとすれば秀人と同じ走者達が次第に嫌悪感を顕にし、走行を中断して何か小言を行っているのが目についてくるだけなのである。

そういうわけであつたから競技が終わつた時には秀人を除いて残っている走者は全く信じられないことにごく僅かであつた。このことは秀人にとってはまたとないことで、賞金の3レイリオンを頭に浮かべながら走っていて一番辛い時でさえ、これまでになく浮き足立ち心臓の鼓動は高まり、頭の火照るのを抑えることが出来ないくらいで、両岸にいた色々な鳥や世界中の人々と比べてみても、自分がかつとも良い状況にいるのではないかとさえ思えてくるのであつた。

そうして実際に表彰台に並ばされて主催者から3レイリオンと賞状を手渡されたときには全くこれほどまでに人生が楽しく思えたこととはないほどなのであつた。思えば子どもの頃に父親に何度も連れて行って貰おうと植物園を前にせがんでみたがどうしても遊びにいくことが許されなかつたのが、まったく思いがけないちよつとしたはずみで叶つた時に、子どもの持つ単純さがその喜びを一層大きくするのと同じように働いて、これ以上なく自分が喜ぶべき境遇にあるのと思わせるように、そのことは秀人の心を弾ませた。

それに自分が誰よりも早く走りきったということが嬉しさに華を添えていて、少しの休憩もとる必要がなく思えたので秀人はさっさと自宅へと歩き出した。心の軽々とした感覚に反し、賞状と擦れ合った3レイリオンが艶のある音を立てる度に、秀人はそのずっしりと重みを感じていた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2821q/>

---

思いがけない一日

2011年1月26日13時15分発行